

特異点の研究と数学教育

10月に「研究するって面白い——科学者になった11人の物語」(岩波ジュニア新書)という本を出版した。

著者は全頁女性である。大学卒業後、他大学の大学院に進学したり、専門や職場を何度も変えたりしている人が多く、「紆余曲折の人生」と感じるかもしれない。だが、人生の岐路に立った時に最善の道を選び、柔軟に対応してきただけである。そのしなやかさに加え、理系女性の人生が十人十色だと知ってもらいたかった。身近な誰かを「ロールモデル

凛としていきる

理系女性の挑戦



若い女性に夢与える存在に

ル」と呼ぶより、いろいろな例を参考にする方が現実的だからだ。

近年、女子中高生の理系進学支援事業が盛んだが、いまだに「理系の女子学生に就職は

あるのか」と高校教員から質問されるし、理工系の女子学生はなかなか増えない。

私自身は自由な高校と両親に恵まれたおかげで迷うことなく理系研究者への道を歩むことができた。大学で友人や先輩たちと行った

自主ゼミは時間を忘れるほど楽しかった。特異点の研究にとても興味湧き、将来子どもも育てたかったの

自由な時間が多そう
な大学の研究者を目指
主催した研究会で世
界中の研究仲間と再会

して大学院に進んだ。女性が少ない環境だったが、数学の研究では性別も国籍も問わず、世界中の研究者と議論

できた。海外では所属や身分と関係なく研究内容に興味を持ってもらえてうれしかった。

出産後、自分の研究が滞りがちになり、出張にも行きにくくなっ

た。しかし「何事も経験!」と、子どもが小さいうちは子連れで海外出張し、学齢期になつてからは自分の大学で特異点に関する研究会を主催している。子どもと科学館巡り

を楽しむようになり、展示技術の進歩に感動したが、数学の展示が少ないことに気付いた。大学の講義を利用して、学生たちと「数学博物館を作ろう!」という展示会をする

と、今まで数学と縁のなかった文系の学生たちも数学に興味を持つてくれた。

現在、ビッグデータや人工知能、プログラミング教育が注目されている。これからは男

女も文理も関係なく、数学が重要になる。数学教育に子育て経験が生かせること、子育て後も最先端の研究で活躍できることを自ら証明し、若い女性に夢を

与える存在でありたい。
企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF)
(火曜日に掲載)

名古屋大学大学院
多元数理科学研究科
伊藤 由佳理



〈プロフィール〉東大院数理科学研究科博士修了後、日本学術振興会特別研究員、東京都立大(現首都大学東京)院理学研究科助手、03年より名古屋大院多元数理科学研究科講師、07年より准教授。